



## 震度階級と地震の発生時間

東日本大震災後、様々な情報や知識を目にすることも多かったと思います。再確認の参考にしてください。

### ① 震度階級

これは震度階級表の一部です。地震が起きたときどうなるかを表しています。

震度3ではほとんどのひとが揺れを感じる大きさになります。震度4では、ほとんどの人が驚き、電灯などつり下げているものは大きく揺れることがあります。震度5弱～震度7は右図のとおりです。

緊急地震速報は、震度が5弱以上になりそうなときに放送されます。

地震発生後にテレビやラジオで震度の情報を得た後は、震度階級を避難時の参考にしてください。

### ② 歴史から見る地震発生時間

日本は地震の多い国です。**地震は昼夜問わず発生し**、いつ起こるかは分かりません。

特に、東日本大震災以降、全国で震度6弱以上の地震は**22回**も起きていますが、そのうち**児童生徒が学校にいるときに**起こったものは、**2回**しかありません。「備えあれば憂いなし」非常持出し袋の準備や避難訓練など、家庭での備えも再確認しましょう。



- 【震度5弱】**
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
  - 棚にある食器類や本が落ちることがある。
  - 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



- 【震度6弱】**
- 立っていることが困難になる。
  - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。
  - 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
  - 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



- 【震度5強】**
- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
  - 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
  - 固定していない家具が倒れることがある。
  - 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



- 【震度6強】**
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
  - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
  - 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
  - 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



- 【震度7】**
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
  - 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
  - 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

「気象庁震度階級の解説」より

### 過去の地震災害の発生日時

1923年9月1日 <b>11時58分</b>	大正関東地震 (関東大震災)
1993年7月12日 <b>22時17分</b>	北海道南西沖地震
1995年1月17日 <b>5時46分</b>	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)
2008年6月14日 <b>8時46分</b>	岩手・宮城内陸地震
2011年3月11日 <b>14時46分</b>	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)
2016年4月14日 <b>21時26分</b>	熊本地震

### 緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。強い揺れの前に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、あるいは工場等で機械制御を行うなどの活用がなされています。

緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒程度と極めて短く、震源に近いところでは速報が間に合いません。また、ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もあります。上述のような緊急地震速報を受けた場合には、直ちに避難行動をとりましょう。そのためにも、普段から使用するような教室等では、安全な場所を確保し、周知しておきましょう。日常の防災が「生きる」につながります。

